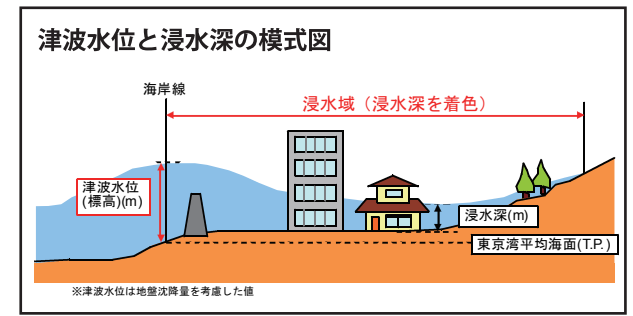


4. 地震・津波防災マップの見方、使い方

このマップは国が公表した「南海トラフ巨大地震」の震源モデルをもとに、徳島県が公表した最大クラスのレベル2地震・津波が発生した場合の「津波浸水想定」を掲載しています。

予測される津波の「浸水深」や津波が来る恐れのある場合に緊急的に避難する「津波避難ビル」、「緊急避難場所」などの情報が図示されています。災害（自然現象）を正しく理解し、いざという時に最善の行動が取れるよう、避難する場所や避難ルート（経路）などを事前に確認し、十分な準備を行いましょう。

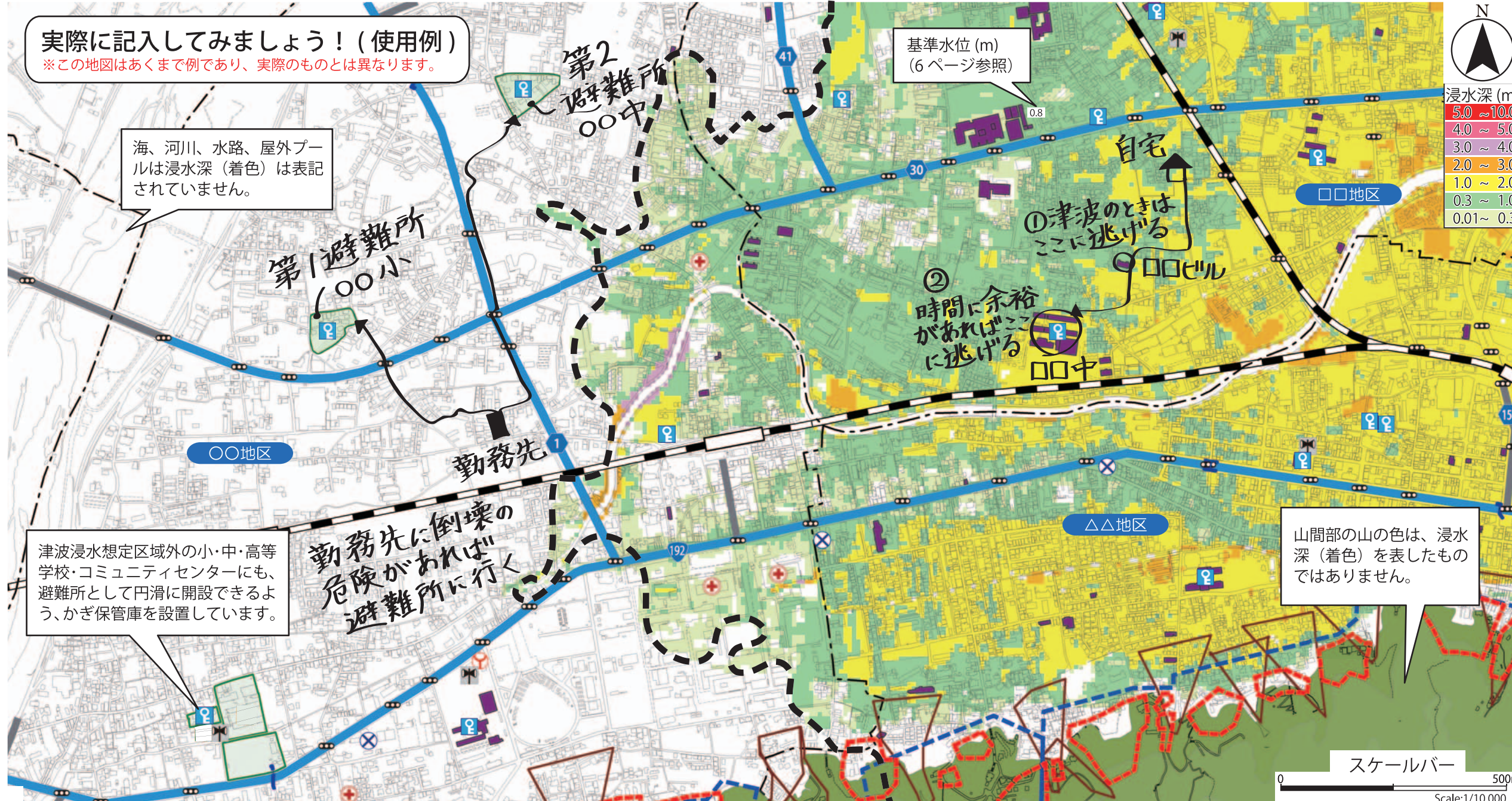


津波浸水想定区域外

浸水深（着色）がない浸水想定区域外の地域は、自宅が被害を受け、生活することが困難になった人たちが利用する避難所のうち、地域の避難拠点となる小・中・高等学校・コミュニティーセンターなどを示しています。

津波浸水想定区域内

浸水深（着色）がある津波浸水想定区域の地域は、津波が来る恐れのある場合に緊急的に避難する津波避難ビル、緊急避難場所などを示しています。



津波浸水深の目安

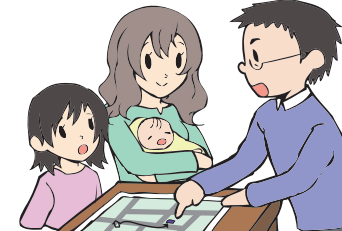
10.0m
5.0m
4.0m
3.0m
2.0m
1.0m
0.3m

浸水深 30cm（大人の膝下付近）で歩行が困難になったり、水圧でドアが開かなくなり、津波は早期避難が最も大切です。

- 津波
- 津波避難ビル ()内は収容可能人数
津波の危険から緊急的に避難する建物
- 緊急避難場所 ()内は収容可能人数
津波の危険から緊急的に避難するための高台や施設
- かぎ保管庫
震度5強の揺れで自動的に解錠する。中には施設入口のかぎが入っている
- 地震・一般災害など
- 避難所
自宅が被害にあった人たちが一定の期間避難し、生活を送る施設
- 避難路
最も短時間かつ安全に避難できる道路
- 急傾斜地崩壊危険箇所
傾斜角30°以上、かつ高さ5m以上の急傾斜地
- 地すべり危険箇所
地すべりが発生する恐れのある箇所
- 土石流危険渓流(区域)
土石流が発生する恐れのある渓流(氾濫域)

注) 浸水の恐れがある地域（着色されている地域）の避難所は記載していません。（避難所も浸水する恐れがあるため）

※この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。（承認番号 徳島市指令都政第199号）



- 最寄りの津波避難ビル、緊急避難場所、避難所、避難ルート（経路）などを地図に書き込んでみましょう。
- 避難ルート（経路）はできるだけ安全な広い道を選ぶようにしましょう。そのルート（経路）を実際に歩いておくことも大変有効です。（夜間時も）
- スケールバーを利用して、避難にかかる距離を把握しておきましょう。
- 本マップは常に確認できるように、本棚に吊り下げなど、わかりやすいところに保管しておきましょう。

この防災マップはレベル2地震・津波を想定しています

この想定は次に起こる地震・津波を予測したものではありません。ただ、この想定が発生頻度は極めて低いものの起こる恐れもあるため、津波が来る恐れのある場合には、この想定に基づき、ただちに津波避難ビル、緊急避難場所などに避難することが重要です。

地震・津波

防災マップ

避難

被害

備え

避難場所